

附属学校最新情報紹介

学校名	鳥取大学附属特別支援学校		
役職	副校長	氏名	安本理恵
活動名	書籍の刊行について		

5月に川井田祥子監修 鳥取大学附属特別支援学校著 「自分づくり」がひらく未来 子どもの願いを支える教育課程の創造 がクリエイツかもがわから刊行されました。

小学部から専攻科までの14年間、生活を楽しむ日々の取り組みがこの一冊に集約されています。スペシャルコラムとして寺川志奈子先生（鳥取大学）三木裕和先生（立命館大学）渡部昭男先生（大阪成蹊大学）國本真吾先生（鳥取短期大学）4名に執筆していただいています。皆様からのご指導ご助言をいただければ幸いです。よろしくお願ひします。

「自分づくり」が ひらく未来

子どもの願いを支える教育課程の創造

川井田祥子/監修
鳥取大学附属特別支援学校/著

学校教育で多用される
「自分づくり」とはどんなものだろう。

教育と発達の見点から「自分づくり」をとことん追究し、子ども・若者たちの内面の育ちを大切にした教育課程づくりに取り組む鳥取大学附属特別支援学校。国立学校で唯一専攻科が設置されており、教育目標にあるのは“生活を楽しむ”の言葉。小学部から高等部専攻科までの14年という長い時間の中で、こうなりたいという願いと葛藤を繰り返しながら、子ども・若者たち自身が自分を主体的に創り出す。

「自分づくり」が
ひらく未来
子どもの願いを支える教育課程の創造

学校教育で多用される
「自分づくり」とは
どんなものだろう。

A5判172頁
定価1,980円(税込)
ISBN978-4-86342-353-4

CONTENTS

第1章 児童生徒学生の「自分づくり」を支援する学校

第2章 「自分づくり」を支える教育課程の創造

第3章 「自分づくり」を育む日々の実践

- 小学部 友だちの中でチャレンジする気持ちをふくらませながら
- 中学部 新たな仲間にもまれて発揮する自分らしさ
- 高等部本科 自分と向き合い、揺れ動く3年間を追って
- 高等部専攻科 小学部から専攻科まで、13年間の育ちを追って

監修・著者紹介 川井田祥子（かわいださちこ） 鳥取大学教授/附属特別支援学校長
鳥取大学附属特別支援学校 〒680-0947 鳥取市湖山町西2-149 <http://special.main.jp/html/htdocs/>

クリエイツかもがわ CREATES KAMOGAWA 〒601-8382 京都市南区吉祥院石原上川原町21
TEL.075-661-5741 FAX.075-693-6605 <https://www.create-k.co.jp>

●HP・FAX・電話でお申し込みください。●本といっしょに払込用紙をお送りします。お近くのゆうちょ銀行より代金をご送金ください。
●HPからのご注文はカード決済ができます。●送料は全国一律1回240円（6月より330円）、5000円以上のお買い上げの場合は無料です。

注文書	（ふりがな）氏名	「自分づくり」が ひらく未来 冊 ご紹介者
	住所 〒	
	電話番号	

附属学校最新情報紹介

学校名	北海道教育大学附属旭川幼稚園		
役 職	副園長	氏 名	野上 大輔
活動名	<p>【附幼ワクワクフェスティバル 夕涼み花火大会】</p> <p>北海道教育大学附属旭川幼稚園では、PTA と後援会の共催により、昨年度から【附幼ワクワクフェスティバル 夕涼み花火大会】を開催しています。</p> <p>コロナ禍の中で、様々な活動がストップしていた中、何とかみんなが楽しめるイベントはできないかと企画したものです。</p> <p>午後7時に幼稚園の集合するのですが、こどもたちは浴衣や甚平を身に纏ったとてもかわいらしい姿で集まってきます。七夕の時期ということもあり、園庭に柳の枝を準備し、参加した皆さんには短冊に願い事を書いてもらいました。</p> <p>午後7時30分から 花火大会の開始！幼稚園隣の広いグラウンドを利用して打ち上げ花火をみんなで見上げます。子供達や保護者を含め200名を超える人数で見上げた夜空ときれいな花火はとても印象深いものでした。</p>		
			

附属学校最新情報紹介

学校名	琉球大学教育学部附属中学校		
役 職	副会長	氏 名	具志あい
活動名	「思うは招く!!」ロケット教室		

「思うは招く!!」ロケット教室

1、活動の主旨

子どもたちが自分で作ったペーパークラフトのロケットを打ち上げる体験を通じて、自分の可能性の広がりを実感してもらおう。ロケットを作っていく中で教えあい、助け合う体験、自分が作ったロケットが飛ぶことで「自分にもできる」という成功体験を味わってもらおう。保護者・教員も見守りや製作を通じて、子どもたちと同じ感動を共有する。

2、活動の日程および概要

日 時 令和5年 2月 2日 (木) 14:00 ~ 16:00

場 所 1学年教室、運動場

講 師 柴田えみ (福岡ロケット教室 RIZE)、サポート3名

参加人数 生徒133名 教員5名 保護者30名 合計 172名

3、実施内容

1) 概要説明 5分

2) 「思うは招く」植松電機 植松社長からの動画メッセージ20分

3) 紙製のロケットを製作する 1時間

4) 運動場でロケットを2機ずつ発射 30分

5) 振り返り、感想を記入 5分

4、感想 1学年委員長より

当日の朝雨が降り発射出来るか不安でしたが、天候も味方してくれ無事開催が出来ました。

ロケットの製作時間は1時間の予定が、思ったよりも時間がかかったため焦りもありましたが、完成まで諦めずにグループで協力し合って作る子ども達の姿は素晴らしかったです。ロケットが飛び出すたびに歓声があり、子ども達、教員、保護者で感動を共有できました。発射後は「楽しかったー!」「ロケット最高!」との声が聞くことができ、教員・保護者製作分も含め30機全て無事に飛ばせて、開催して良かったと思いました。琉球新報社さんに動画でも紹介されました。ぜひYouTubeもご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=ln4kVln6LCo>



附属学校最新情報紹介

学校名	埼玉大学教育学部附属中学校		
役職	P T A会長	氏名	田中 亜弓
活動名	心に寄りそう ～ かける言葉をポジティブに ～		



【子どもたちの想いを形に】 R 3年度～

子どもたちの意見を取り入れたP T A活動をしていこうと、美術の時間とコラボした中庭づくり。生徒が美術の時間に設計し、全校生徒が投票をして決まったデザインをP T Aが中庭に作りました。

出来上がったウッドデッキに腰かけて生徒たちは何を語り合っているのか。春にはピンクの花をつけるハナミズキだけが知っているようです。他にも生徒からの要望で校内に暖房便座を完備。体も心もホカホカトイレになりました。



保護者の学び

【違いを認める】 R 4年度～

P T A教育講演会で、ダイバーシティについて紐解き、多様性について考えました。「幸せの形は多様でありどんな形でも人は幸せになれる。」「親子でも違う人間」「丁寧に対応することが大切」と改めて気づききっかけとなりました。またそのダイバーシティへの取り組みとして、女子のスラックス導入開始や、生理用品を女子トイレに置き、困った時にすぐ使うことができることはもちろん、ジェンダーなどの観点から心身の健康サポートを始めました。

保護者の学び **【心に寄りそう ～かける言葉をポジティブに～】 R 4年度～**



思春期の心に親としてどう寄りそえばよいのか。スクールカウンセラーの先生（S C）のお話を聞き、そして意見交換、交流をしました。意見に共感したり、新たな気づきがあったり有意義な会となりました。

またS Cに相談することはハードルが高いと考える保護者の方が多かったので、いつでも気軽にS Cという「身近な心の専門家」に相談できることの広報の場ともなりました。



【SDG s 身近な優しさ】 R 4年度～

子どもの成長や卒業などで不要となった制服という資源の有効活用、家計のサポート活動をスタート。回収した制服をラックに吊り下げていつでも使えるように無償で提供。学校生活の中で制服が汚れてしまった、やぶれてしまった！そんな時も大丈夫。いつでも安心して使えます。無償提供してくださったみなさまに感謝です。



【子どもたちのとまり木】 R 5年度～

教室に入ることがつらい、居場所がない。心に疲れがたまったら「とまり木」に来て羽を休めることができます。S C不在の日はサポートスタッフの方や先生と教育相談室内にできた学習室で過ごせます。羽を休めて、また飛び立っていけるよう生徒同士、先生方、保護者みんなで見守ります。



【P T A】 優しさが広がり、心温かい学校生活が継続して送れるように、心に寄りそう活動を目指します。

附属学校最新情報紹介

学校名	群馬大学共同教育学部附属中学校		
役 職	校長	氏 名	上原 永次
活動名	働き方改革		
内 容	<p>2018年に文部科学省が公表した教員勤務実態調査の中で、小学校教員の約3割、中学校教員の約6割が過労死ラインとされる月80時間以上の時間外労働をしているという指摘がありました。このような中、学校においても長時間労働の解消という大きな課題解決に向け、様々な取組が行われています。この学校における働き方改革の意味は、教職員にとって働きやすい職場づくりを推進することであり、質と量の両面から学校教育の見直しを進めていくことでもあります。教員の働きやすさや円滑なコミュニケーションを推進し、業務の精選・適正化を図るとともに、学校教育の質的な向上を目指すことが重要です。</p> <p>附属学校について、「帰りが遅い」「仕事がたくさんある」「多忙である」といったことを耳にすることがあります。現在、本校では「勤務時間や業務の見直し」と「教育活動の質の向上」の両面を視野に、学校改革を大きく推し進めています。教員の意識改革を進め、働き方改革推進委員会（以下、「推進委員会」）や学年会が中心となって校時表の見直しや業務の精選、そしてICTの活用による業務の効率化を図り、さらにICTを駆使して個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させようと、教育の質の向上を図っています。働き方改革により、質の高い教育の提供と働きがいのある職場づくりを同時に着実に進めています。以下、本校における具体的な取組を紹介します。</p> <p>①教員の意識改革と組織的な取組</p> <p>校長による学校の経営方針を受け、校内に運営委員会と同メンバーで推進委員会を組織し、月に1回会議を行うこととしました。運営委員会の終わりの時間を活用して実施しています。また、推進委員会での話し合いを受け、学年主任のリーダーシップによる積極的な業務改善（学年会の実施方法や学年業務の見直し）や各部会（教務部、研究部、生徒指導部、学友会指導部における分掌業務の見直し）の計画的な業務改善にも取り組みました。もちろん、会議や研修の時間の短縮や教育研究会に関わる事務、大学との共同研究の進め方についても見直しをしました。</p> <p>そして、教員が勤務時間を意識する手立てとして、勤務時間の記録を活用して毎月各学年教員の時間外勤務の記録（学年平均）をグラフ化（見える化）し、色を変えて比較できるようにしました。この状況は推進委員会で毎月示し、時間外の多い学年はさらに業務の見直しを進めていくという継続的な取組につなげています。学校運営上の大きな変更点については、PTAの本部役員会・理事会・学年集会で説明し、理解を得たうえで実施するという手順をとり、保護者にも見直しの理由や内容をしっかり伝えながら進めています。</p> <p>②学校全体による勤務時間の見直し</p> <p>本校は、年間を通して変形労働時間制を取り入れています。繁忙期と閑散期の一日の勤務時間に差を設け、効果的な運用を行っており、教育実習や公開研究会の準備の時には、勤務時間を長く設定し、メリハリのある勤務ができるようにしてあります。また、校時表の見直し・工夫を行い、毎日の放課時刻を令和3年10月から25分早めました。これにより、放課後に担任、学年業務・授業準備等の時間が生まれ、年間通じて放課後の時間を有効に活用できるようになりました。</p> <p>③教員の業務の見直し・ICTによる校務の効率化</p> <p>本校の大切な役割となっている「教育実習指導」についても、指導終了時刻を設定し、計画的に見直しをもちながら指導できるように工夫しました。また、下校指導体制についても、全教員で毎日実施していたものを担当者を決めて役割分担をしながら進めることとしました。そして、通知表の所見及び形式についても見直し</p>		

を行い、三者面談との関わりで所見を省略したり、通知表の形式や内容を精選し見やすいものにしました。あわせて学期末における事務処理日を設定し、時間のかかる学期末事務の時間を確保しました。さらに、玄関開錠・施錠時刻を明確化したり、電話対応の時間（留守番電話対応）も見直したりして、教員の負担軽減を図りました。発育測定も年3回を2回の実施としました。

PTA 関係の会議は、本部役員会以外の会議をリモート会議で実施し、校内の会議をペーパーレス化し、家庭との連絡においてもデジタル化を推進し、生徒の欠席連絡、通知の配布等も方法も改善しました。PTA 役員選挙もオンライン化し効率化を図りました。

令和3年度から改革を組織的に推進し、時間外勤務の時間数を大幅に削減し、働きやすい職場環境の実現と教育の質的な転換を進めることができたと感じています。現在も進行中ではありますが、今後も教育の質の向上と効率化・精選化の両面を視野に働き方改革を推進していきたいと考えています。

附属学校最新情報紹介

学校名	静岡大学教育学部附属浜松中学校		
役職	P T A会長	氏名	二村美里
活動名	親子奉仕作業		

内 容

静岡大学教育学部附属浜松中学校では、毎年9月初めに、「親子奉仕作業」といって、学校を親子で清掃をする日を設けています。普段お世話になっている学校に感謝の気持ちを形に変える事業として、活動を続けています。

ここ数年、コロナ禍のため開催できていませんでしたが、今年度は9月2日(土)に4年ぶりに開催されました。

この活動は、学校の清掃はもちろん、作業を通して、親子だけでなく会員同士のコミュニケーションを図ろうとの趣旨で開催されています。

当日は任意での参加に関わらず、500名を超える皆様にご参加いただきました。夏休み中に子どもの背丈まで成長した草もあったグラウンドや、学校の裏にある「天神森」という愛称で生徒から愛される森の雑草も刈り取られ、皆様のご協力により生まれ変わり大きな成果を得ることができました。

草を刈りとり運搬する作業は想像以上に大変な作業でしたが、参加者からは「みんなでやるとあっという間に綺麗になるね。」「気持ちいいね。」などの声が聞かれました。



写真提供：二村美里

附属学校最新情報紹介

学校名	大阪教育大学附属池田中学校		
役 職	副校長	氏 名	辻本 堅二
活動名	食育プログラム「食べて学ぶ SDGs」 ～社会課題解決に向けて考え行動できる生徒の育成～		

本校において、八千代エンジニアリング株式会社（東京都台東区）、大塚食品株式会社（大阪市中央区）、カゴメ株式会社（名古屋市中区）と協働で、食育プログラム「食べて学ぶ SDGs」を各社等から講師を迎え、本校の3年生を対象に令和5年6月14日、15日の講義と21日、22日の調理実習の計4日間にわたり実施しました。

これは、「人々の協力によって持続可能な社会が発展し、環境へ影響を与える。」をテーマに「探究的な学習（*1）」の一つとして実施したもので、生徒が自分の健やかな成長に必要なバランスのよい食事のための食品の選択や活用方法、保存方法、調理の工夫を学ぶとともに、食品という資源が限られたものであることや食品ロスなどの社会課題や食生活の裏側を知ること、自分の食生活を振り返り、持続可能な社会の構築を意識した食生活の実践へとつなげていくことを目的に、よりよい食生活とは、自分の食の内容を充実させるだけではなく、そこに付随する消費行動を通じた人々の協力が持続可能な社会の構築や社会課題の解決につながることに気づきを得ることをねらいとして実施しました。

はじめに、普段食べている食材の生産と社会・環境問題とのつながりや世界的な人口増加による食糧不足への懸念、フードロスの課題やそれらに対する取組についての授業があり、世界中で注目されているプラントベースフード（*2）について学びました。

続いて、実際にプラントベースフードのゼロミートハムタイプやエバーエッグ（スクランブルエッグ風加工品）を用いて調理実習を行い、生徒たちは自分たちで作ったたまご&ハムサンドを試食しました。

調理実習後、生徒たちはグループワークを通して、「はじめてプラントペーストフードを食べましたが、味も本物と変わらず美味しかったです。これなら食糧不足を補うだけじゃなく、様々な食習慣や食文化などの食の多様性にも対応していると思いました」「プラントペーストフードは本物と味や見た目の違いがほとんどないけど、まだまだ美味しくないというイメージを持たれていると思います。そのイメージを変え、もっともっと使いやすい環境作りが必要だと思いました」などの気づきや問題解決への課題の発表を行いました。

家庭科を担当する大野真貴教諭は「学習指導要領改訂を審議する中央教育審議会では、教育が普遍的にめざす根幹を守りつつ、社会の変化を柔軟に受け止めていく、『社会に開かれた教育課程』への期待が議論されています。これには、社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介して社会と目標を共有していくことと、子ども達が社会や世界と向き合い、関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために必要な資質・能力を教職課程の中で明確にし、育てていくことが重要だと思っています。今回、企業との連携プログラム『食べて学ぶ SDGs』は、学校と企業が力を合わせ、社会とのつながりを重視しながら行いました。現実の社会との関わりの中で、子ども達が一人ひとりの豊かな学びを実現していくことにつながるとしています」と述べました。

*1 探究的な学習…「物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営み」であり、「問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく」学びのこと。

*2 プラントベースフード…動物性原材料ではなく、植物由来の原材料を使用した食品のことを指します。これまでに、大豆や小麦などから「肉」「卵」「ミルク」「バター」「チーズ」などの代替となる加工食品が製造・販売され、畜産物や水産物に似せて作られていることが特徴です。



講義「食と環境問題とのつながり」



授業の様子（左、管理栄養士 鈴木結理奈氏）



調理実習の様子（スクランブルエッグ風加工品の説明をするカゴメ株式会社 稲葉光貴氏）



調理実習の様子



エバーエッグの試食



グループワークで学びを振り返る様子

附属学校最新情報紹介

学校名	大阪教育大学附属池田中学校		
役職	副校長	氏名	辻本 堅二
活動名	災害時における情報の信頼性を見極め方を学ぶ「情報防災訓練」		

災害が発生した際に、SNS（交流サイト）上で発信されるさまざまな情報の見極め方を学ぶ「情報防災訓練」を、令和5年8月24日に本校で実施しました。

2年生の授業では、LINE みらい財団による「スマホ安全教室（情報防災教室）」をオンラインで実施しました。大型台風が接近しているという想定で、生徒たちはグループで話し合いながら、SNSの投稿をイメージしたカードを信頼できる順に並べました。講師は情報の信頼性を見極めるポイントとして、「だれが」「いつ」投稿したのかを確かめ、さらに「複数」の情報をチェックすることが大切だと解説。それぞれの頭文字をとって「だいふく」と覚えてほしいと話しました。生徒たちは、グループワークを通じて他者との意見の違いに気づき、普段の生活における情報の取扱い方についても認識を深めました。

2年生学年主任の田中誠也教諭は、「SNS上の情報は、発信の速さという利点がある一方、信頼できない情報が混じっているのが欠点です。今回の情報防災訓練で、生徒たちは情報を適切に見極める力をつけることができたと思います」と述べました。



授業の様子



グループワークの様子



SNSの投稿をイメージしたカード

附属学校最新情報紹介

学校名	京都教育大学附属桃山中学校		
役 職	副校長	氏 名	秋山雅文
活動名	初心者躍動 サッカー部の挑戦		

本校の部活動は公立中学校よりも活動時間が短く、平日は毎日1時間程度の4日間、休日は3時間の1日という練習時間で取り組んでいます。どの部も部員の半数以上は初心者という状況です。部活動を目的に入学してくる生徒はほとんどいません。

その中で経験者が比較的多いのがサッカー部です。しかし、練習がしんどいという評判で、部員数は各学年7～8人程度の小さな部です。その小さな部が大きな目標を立て、「京都で他のチームがやっていないことをやろう」という挑戦を続けています。それは、ボールコントロールの練習を徹底することです。とても地味な練習に毎日多くの時間を費やします。そして、サインプレーを何度も繰り返し、痛さや怖さに負けないヘディング練習を積み重ねます。休日には、3～4人制のミニゲームを2時間近く続けます。夏の大会前には、暑さに勝つためにジャージを着て練習に取り組みました。特別なことができるわけではないものの徹底して取り組むことで、それがチームの強みとなり、結果が伴うことでいっそう自信を持って徹底できる、それが仲間の結びつきも強めてきました。



近年の中体連実績は次の通りです。

- 令和4年度 京都市夏季大会 第3位 京都府大会ベスト8
- 令和5年度 京都市新人大会 準優勝
- 令和5年度 京都市春季大会 準優勝
- 令和5年度 京都市夏季大会 第3位 京都府大会ベスト8

凡事を徹底し、やれることは小さなことでも全てやる。府大会で同点ゴールを決めて吠えるのは、中学校からサッカーを始めた選手です。「努力は人を裏切らない」身をもって学んだことが、これからの彼らの人生を支えていくことと思います。



附属学校最新情報紹介

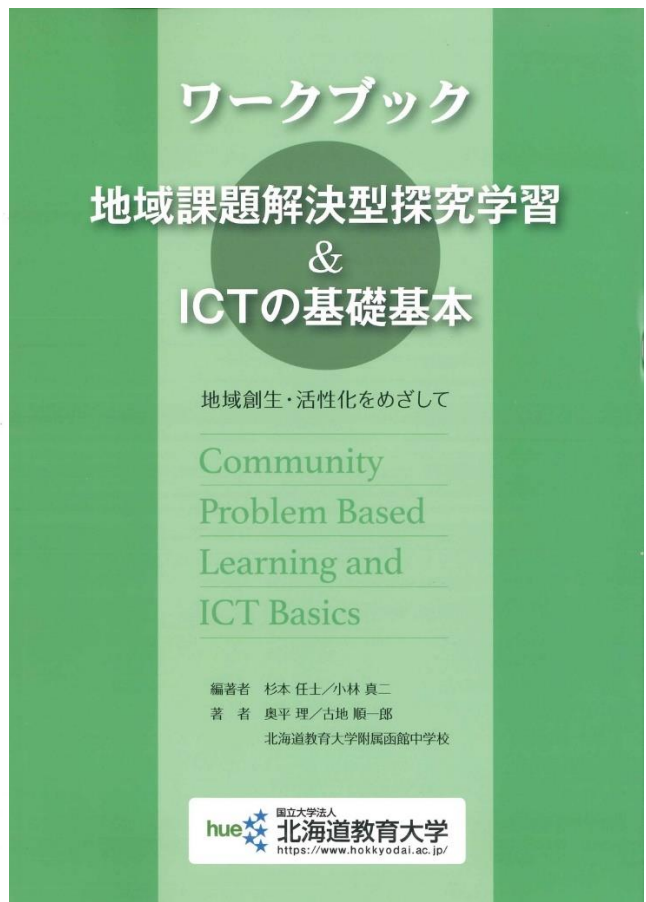
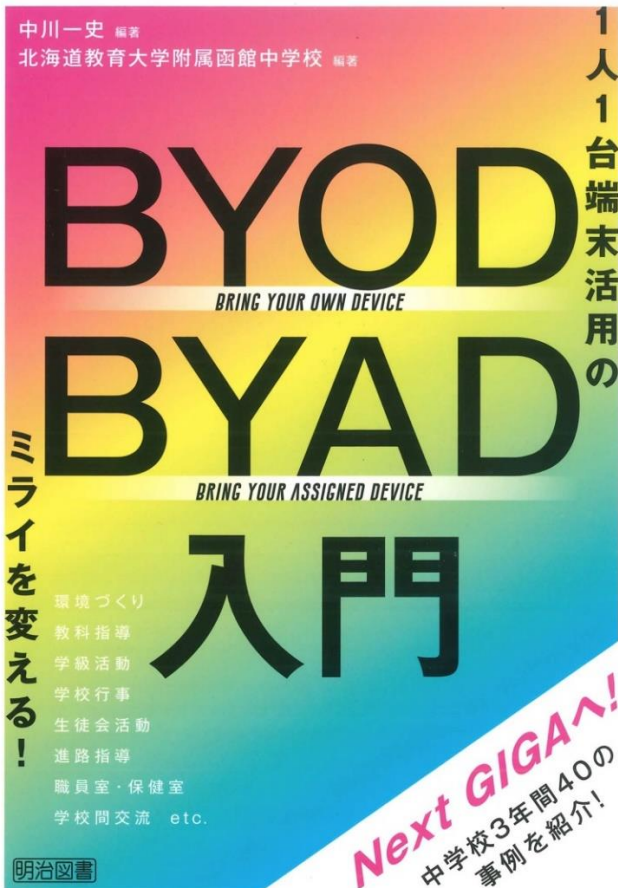
学校名	北海道教育大学附属函館中学校		
役 職	副校長	氏 名	黒田 諭
活動名	書籍の刊行について		

本校では、北海道教育大学附属函館中学校著の2冊の書籍「1人1台端末活用のBYOD／BYAD入門」および「ワークブック 地域課題解決型探究学習&ICTの基礎基本」を刊行しました。

「1人1台端末活用のBYOD／BYAD入門」は、教育現場でのデジタルデバイスの導入を指南する一冊となっています。これまでの本校の取組をベースに、学校現場がどのようにBYOD／BYADを進めていけばよいのかを示す指針となっており、デジタル教育の更なる推進に向けたガイドブックとしての役割を果たしています。

「ワークブック 地域課題解決型探究学習&ICTの基礎基本」は、地域社会と連携しながら実践的な学習を進める方法を提案しています。探究学習を通じて地域の課題を解決する取組を、ICTの基本的な知識と組み合わせることで、生徒が現実社会に目を向け、社会貢献しながら学ぶ姿勢を育むための教材となっています。

本書の執筆にあたり、多くの専門家のご意見やアドバイスを参考にしており、その深い知識と経験がこの二冊の本に反映されています。皆様からのご指導ご助言をいただければ幸いです。よろしく申し上げます。



附属学校最新情報紹介

学校名	大阪教育大学附属池田中学校		
役職	PTA 会長	氏名	奥村 淳
活動名	キャンパスクリーン大作戦		

1. 活動主旨

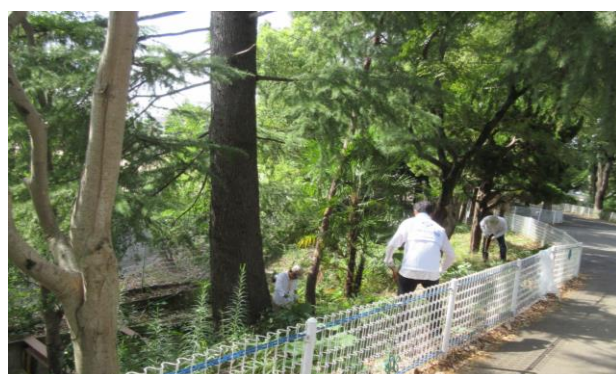
「キャンパスクリーン大作戦」は、平成 13 年に附属池田小学校で起きた事件を受け、犯罪防止のため見通しの良い学校づくりを目的として附属池田中学校で始まった活動です。初回開催は平成 15 年の夏、「草刈り十字軍」の名のもと池田キャンパスの植木の剪定や草刈りが行われました。そこから事件の対応時に痛感した小中高の連携の大切さを PTA でも向上させるべく、同キャンパスの小・高にも協力を呼びかけ、「キャンパスクリーン大作戦」に改称し今日まで小中高の連携行事として続いています。

2. 実施内容

9月9日(土)8:45～11:00、小中高で総勢 205 名（保護者 145 名、教職員・用務員 17 名、生徒 43 名）が、池田キャンパスで草木の多い 8 つのエリアに分かれました。朝礼で活動主旨を共有した後、各所で日頃手の行き届かない箇所の草刈りや植木の剪定、ツタの除去等を行いました。熱中症対策のため短時間での作業とし、作業時間の途中ではいったん全員休憩の時間を設け、スポーツドリンクを配布しました。

3. 活動を終えて

当日まで天気予報が二転三転しましたが、無事晴天に恵まれ開催することができました。昨年度は雨天中止だったため、草木が茂っていた場所が多く残っていましたが、参加していただいた皆様のおかげで、緑が溢れる中でも見通しの良いキャンパスとなりました。この活動に込められた「小中高の連携を通して安心・安全な学校づくりを目指す」メッセージを、今後も引き継いでいきたいと思ひます。



附属学校最新情報紹介

学校名	富山大学教育学部附属小学校		
役職	PTA 会長	氏名	米田篤史
活動名	ランドセルと内履きの自由化!! ～多様性の推進～		

【内容】

この度、50年以上前から富山大学教育学部附属小学校の低学年（1年生と2年生）の指定ランドセルだった黒川鞆店の「黄色いランドセル」を指定鞆から解除することになりました。この決定は、新型コロナウイルスの影響でクロムブックが全児童に配布され全児童に配布されることになり、低学年児童に合わせて設計された黄色いランドセルに合わなくなったことが大きな理由です。黄色いランドセルは、遠方から公共交通機関を使って通う児童が多い附属小学校の先生からも何かトラブルが生じた際、ランドセルの色で附属の生徒かすぐに判別できた、という利点もありました。新1年生が真新しい黄色いランドセルを小さな体に背負って歩いている姿は富山の風景の一つでもあり、42年前にこの黄色いランドセルを使用していた私としても苦渋の決断でしたが、これも時代の流れと割り切ることにいたしました。指定鞆から解除することになり、黒川鞆店も数量の予測ができないものは作ることができない、と製造自体も終了することになりました。

併せて、3年生以上で指定されている皮のランドセルもそれ自体も重く、教科書やクロムブックを入れるとさらに重くなります。また日によって中身がほとんどないのに通学する際は指定のランドセルを使用しなくてはいけないことも、使いづらいという声が多く上がってきました。近年は軽くて丈夫なランドセル型の鞆も出てきたことから、学校側とPTAとで検討を重ねてルールを作り、児童がより快適な学校生活が送れるように鞆も選択ができるようにしました。

同様に、甲高・幅広など個人差のある児童の足のサイズに合わせた内履きの選択も可能にしました。成長期の児童にとってサイズの合わない内履きを無理して履くことは大きなストレスになっていたはずですが。



内履きの変更について Ⅰ

現在の学校指定の内履き

変更背景

- 保護者からの意見
 - 人によっては靴擦れしやすい。
 - 足に合わない。

学校

それぞれの児童の足に合ったものを使用できるように変更する。

変更内容

原則自由に選べることをする。
※現在の学校指定内履きを引き続き使用することも可能です。

変更時期

2023年10月2日より実施。

内履きの変更について Ⅱ

選定ルール

- 内履き用または履内用のものを選定する。
インソールは取り出しができること、洗うことができ、清潔に保てます。
- 汚れや痛みが予想されるので、内履きとして適切なものを選定する。
- マジックテープタイプか紐タイプかは問わない。
※紐タイプは自分でちゃんと結べることを前提とします。
- 抗菌・防カビ材などの層が薄く、素材が劣化しやすいものは不可とします。
- ファンポイントやラインは可とする。
※柔らかい素材やアタリ、アタリのキツクさ等が不可とします。
- メッシュ素材のものは透気性がよく、1日中快適に通じます。
- 色は白を基調とする。
- 厚底の厚いものは不可とする。
足元が不安定で転びやすいので危険です。
- 足首まで覆うような形のものも不可とする。
履き履きや収納面から選ばれません。

低学年ランドセルの変更について 1



現状の学校指定のランドセル

変更背景

保護者からの意見 クロムブックや教科書のサイズ変更により中身が重くなり、指定ランドセルが合わなくなってきた。

学校

それぞれの子供の体に合ったものを使用できるように変更する。

変更内容

登下校に使うランドセルは、原則自由を選べることにする。
※今回の変更と合わせて、現在の学校指定ランドセル(黄色)については、販売店での取り扱いも終了します。
※ただし、現在の学校指定ランドセル(黄色)を引き続き使用することも可能です。

変更時期

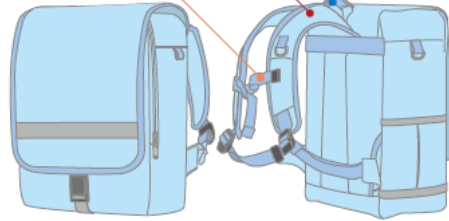
2023年10月2日より実施。



低学年ランドセルの変更について 2

選定ルール

- 革製のランドセルやソフトタイプのランドセル。
- 容量(〇〇L等)は指定しない。
 - 参考 子供の体に合ったランドセルを選びましょう。
- 両肩で背負うタイプのもの。**
 - 参考 ショルダー部分は厚みがあり幅広いものの方が肩に感じる負担が軽減します。
- 色は自由。
 - 参考 ※現在も3年生以降に使用するランドセルの色は自由。



- A4のサイズのお便りや教科書を入れやすいもの。
- クロムブックが入るサイズのもの。
 - 参考 ランドセルの背にタブレットを収納できるポケットがあるタイプのももあります。衝撃によるクロムブックの故障が増えております。クッション性がある安全にタブレットを運べるものを選んでください。



装飾・装備等で引っ掛けやすい形状のものは不可。



文字通り小さな一歩かもしれませんが、児童がより快適に学校生活を送るために身近なところから、ひとつひとつ対応できることから変えていくことが、多様性を求められる世の中には必要だと思っております。

附属学校最新情報紹介

学校名	香川大学教育学部附属特別支援学校		
役職	教諭	氏名	塩田 友亮
活動名	アシストガイドで行く修学旅行		

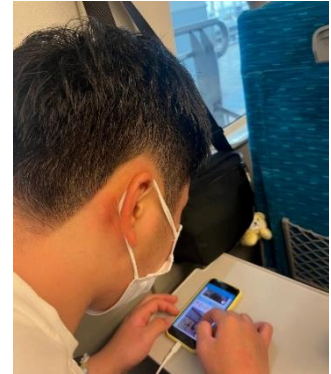
活動の日程及び概要

対象者 高等部2年生

日時 令和5年9月13日(水)～15日(金)

行き先 九州(鹿児島、熊本、長崎)

紙媒体による「修学旅行のしおり」は作成せず、代わりに自分のスマートフォンで「アシストガイド*」というアプリを活用しました。「おたすけメモ」の中の「行きかた」という機能を使って、日程等の情報を文字や画像で入力して当日持参しました。移動中などに日程をその都度確認しました。これまでも授業の中でスマートフォンを活用してきたこともあり、操作には慣れているので、必要なときに手軽にポケットから出して自主的に活用していました。



日程を確認する様子

*「アシストガイド」は、本校も開発に協力しているアプリで、「ソフトバンク」が制作しているものです。

新幹線やバスなどの自分が座る座席の確認にも活用しました。授業中にみんなで相談して決めた座席の一覧表を撮り、「行きかた」に挿入しておいたことで、スムーズに自分の座席を探して座ることができました。

宿の部屋割りも挿入しておいたので、友達の部屋を探す場合も便利でした。



新幹線の座席を確認する様子

「アシストガイド」で活用した機能は「行きかた」だけではありません。おたすけメモの「持ちもの」にお土産リストを作成して、入力しておきました。どこで、誰に、何をいくらぐらいで購入するのか入力しておき、当日はそれをもとにお土産を探しました。購入したお土産を移動中に確認することも、楽しい活動の一つでした。

一方、宿における自由時間には、購入したお土産の写真を撮影して金額と一緒に入力することで、お小遣い帳の役割としても活用しました。

これからの時代、卒業後の生活でもスマートフォンを使えるように、将来の生活を考えたICTの活用の重要性を再認識しました。



バスの中でお土産を確認している様子



宿でお土産をチェックしている様子

附属学校最新情報紹介

学校名	愛知教育大学附属幼稚園		
役 職	PTA 会長	氏 名	山下志保
活動名	なつまつり		

内 容

愛知教育大学附属幼稚園では、毎年7月に夏祭りを開催しております。今年も7月11日（火）に行い、4年ぶりとなる制限のない夏祭りで、子どもたちは目一杯楽しんでいました。

今年度は2つのことに挑戦しました。1つ目は、「SDGsを意識した取り組み」です。

夏祭りの飾りや制作物は毎年ほとんどのものが捨てられてしまいます。これを持続可能なものにできるように板や強度のある紙を使ったりしながら、次年度以降にも使用できるようにしました。



玉転がしです。木の板を使っています。子どもたちが触ってもちょっとやさっとじゃ壊れません。



ボールをかばさんの口にポンといれるゲーム

2つ目は、「共に作り上げる夏祭り」です。例年夏祭りの係の保護者が準備をしますが、今年度は準備段階から園児と保護者で関わっていくことで夏祭りがいつもより増して盛り上がりました。天井の飾りも、保護者向けに制作会を開きみんなで準備をしていきました。



みんなで作った星の飾り



お魚釣りゲーム。園児に海の生き物を描いてもらいました。ぼくのはあるかな～!?



こちらの部屋の窓や天井の飾りには、園児の絵や制作物を募集し飾り付けています。



ジャングルを探検！
ドキドキ…

他にも「万華鏡」や「かざぐるま」など自分たちで作る体験ブースもつくり、子どもたちが楽しめる工夫もしました。

子どもたちからは「もっとやりたい！」と、保護者のみなさまからは「準備段階から関わることができてよかった」との声を多くいただきました。

素敵な夏の思い出になりました。

附属学校最新情報紹介

学校名	京都教育大学附属京都小中学校		
役 職	育友会 会長	氏 名	上野 剛史
活動名	「能・狂言ってなあに!？」～みんなでふれ合おう、日本の伝統文化～		

京都教育大学附属京都小中学校では、毎年、生徒、保護者、教職員にむけた文化行事を開催しています。

令和5年度は学校を飛び出して、平安神宮の近くにある能楽堂 京都観世会館にて「能・狂言ってなあに!？」～みんなでふれ合おう、日本の伝統文化～と題し、能楽鑑賞と体験を行いました。1年生から9年生まで約300名が参加し、プロの能楽師の方々のわかりやすい解説を聞きながら、能楽と狂言の違いを学び、参加者全員で型などを体験しました。普段なかなか行くことのない能楽堂で迫力のある生の能楽を鑑賞することは、子どもたちにとって日本の伝統文化に触れる良い機会になったと思います。

鑑賞をした「船弁慶」は、源義経と弁慶が船の上で薙刀や刀を使い怨霊を退治するという、子どもたちにも分かりやすく大変人気の曲でした。終演後のアンケートでは「歴史をもっと勉強したくなった」「日本人として日本の伝統文化をもっと知りたくなった」「囃子や舞の迫力がすごかった」など多くの意見が寄せられました。映像や書物だけではなく、生で観て肌で感じることは感動の大きさも違い、記憶にも鮮明に残るので、価値のある文化行事になったのではないかと思います。



附属学校最新情報紹介

学校名	大阪教育大学附属平野小学校		
役職	PTA 会長	氏名	藤井 由香
活動名	体感型教育講演会「子どもの『成長ファーストで考える』学校と保護者のチームワーク」		

【活動趣旨】

「いじめ対策」はどの学校においても喫緊の課題です。学校と保護者が知識を共有することで対応の選択肢が増え、ひいては子ども・保護者・学校、三者の未来が変わります。保護者や学校が取り得る選択肢を学び、学校と情報を共有しあくまで「子どもの成長」を目標とした対応を取ることが大切だという意図のもと活動を行いました。

【活動内容と特徴】

令和5年11月21日、本校元副校長先生で大阪大谷大学准教授の四辻伸吾先生をお招きしてご講演をいただきました。お話を伺うのみの教育講演会ではなく、「子ども・保護者・学校」三者が多数のワークや実験を通じて体感する謂わば「体感型講演会」であることが本講演の特徴でした。このことによって座学のみでは実感しにくい即時的・実地的な学びができました。

例えば、私たちは同じものを見ていても人によっては全く違うものとして捉えているかも知れません。そのような価値観の多様性を実感として認識できるように「ルビンの壺」や「娘と老婆」の騙し絵を使い体感しました。

また四年生の児童に対するご講義では子ども達に「何がいじめにあたるのか」について具体例を検討しながら、法律に定めるいじめの定義のみにとらわれることなく「相手のつらさ」を理解することの大切さを学びました。このご講義も保護者向け講演会と同様にオルゴール実験やエナジースティックを用いた科学実験教室さながらの体感型授業となりました。子どもたちは活発に意見を述べ、充実した表情で教室を後にしました。

【活動を終えて】

今回の講演会の特色は、子ども・保護者・学校の三者それぞれが当事者意識を持つこと、「どう対応することが子どもの成長につながるのか」という視点で保護者と学校がチームとなることの大切さを「体感として」学んだことにあります。いじめ問題には多数の対応策があります。いち保護者としてその分水嶺を知り、行動する自信を持ち帰ることができた学びとなりました。



エナジースティック実験

(人の良さは人を介してさらに輝くことを体感した子どもたち)



体感型講演会の様子

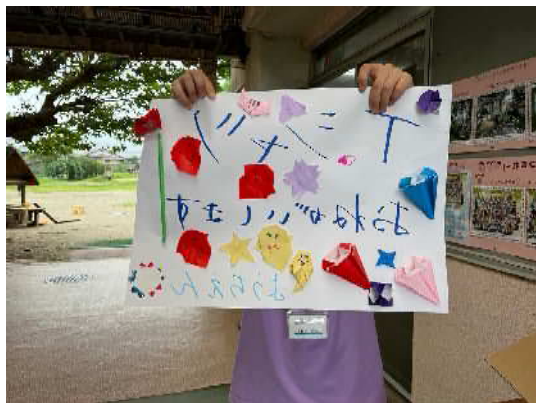
(緊張感のあるテーマにも拘わらず驚きと笑顔に満ちた講演会)

附属学校最新情報紹介

学校名	三重大学教育学部附属幼稚園		
役 職	三重大学教育学部附属幼稚園育友会会長	氏 名	岩田 知紗
活動名	特別支援学校と幼稚園をつなぐ 幼稚園育友会オリジナルTシャツ大作戦！！		
内 容	<p>当幼稚園育友会（PTA）では、昨年度からバザーの代わりに、物販販売をしており、今年度もオリジナルTシャツの販売企画を立ち上げました。</p> <p>同じ時期に、特別支援学校の校長先生から、生徒さんが、Tシャツのプリントを就労に向けて授業でしていると伺いました。そこで、幼稚園のオリジナルTシャツを特別支援の生徒さんをお願いできたら、幼稚園の子どもたちと特別支援の生徒さんたちとの交流にもなるのでは、また、実現をしたら、たくさんの人の思いが詰まったTシャツになるのではないかと執行部のみんなで考え、特別支援さんをお願いする方向で動き始めました。</p> <p>お願いするにあたって、特別支援のプリント担当の先生と直接、色々な相談をさせていただきました。一時は、希望納期が合わず、今回は、無理なのかも・・・と諦めかけたのですが、特別支援学校育友会 吉村会長から</p> <p>「特別支援の生徒たちのモチベーションになるのでは是非！自分たちがプリントしたTシャツを幼稚園の子どもたちが着ていたら、本当に生徒たちも喜ぶます。次へのやる気にもなると思います。」とのお言葉を頂き、今年度は、子どもたち用の白Tシャツのプリントをお願いいたしました。</p> <p>二学期に入って、特別支援の生徒さんには、急ピッチで、Tシャツを仕上げて頂きました。出来上がった白Tシャツは、特別支援の生徒さんが、幼稚園に持ってきて頂き、直接子どもたちに手渡してもらいました。納品に来てくれた生徒さんは、</p> <p>「Tシャツのサイズが小さいので、枠に挟むのが、難しかった。」</p> <p>「こんなに喜んでもらえて、嬉しい。」と、笑顔で教えてくれました。</p> <p>幼稚園の子どもたちは、特別支援のお兄さん、お姉さんがTシャツを作ってくれたことが本当にうれしくて、お礼に「にじ」の歌をプレゼントしました。今年度は、Tシャツの他に、オリジナルエコバッグも企画し、そちらのプリントも特別支援の生徒さんをお願いいたしました。（幼稚園の運動会で限定販売いたしました。）</p> <p>特別支援学校育友会 吉村会長</p> <p>「特別支援の生徒も大口の依頼を頂いた事で製品を作るということに責任感を持って取り組み、幼稚園の子どもたちに直接納品して喜んでもらえて、さらに自信がついたようです。今後と四附間でこのような交流の機会が増えると良いと思います。」</p> <p>特別支援の育友会からも嬉しい言葉を頂き、幼稚園育友会では、特別支援の生徒さんと幼稚園の子どもたちが、さらに交流でき、共に笑顔で、支えあえられるように、今後も FT 工房（FUZOKU TOKUSHI FACTORY）さんをお願いできればと思います。</p> <p>また、今回のTシャツプリントをお願いするにあたり、ご協力いただきました、特別支援学校の校長先生・プリント担当の先生・幼稚園の園長先生に感謝申し上げます。</p>		

最後になりましたが、T シャツ販売の収益は、子どもたちが保育室で使う「おままごとセット」購入費用に充てさせていただきました。

Pic1：幼稚園から特別支援学校への画用紙お手紙



Pic2:特別支援学校生徒さんの作業様子



Pic3:幼稚園でのTシャツ受け渡しの様子①



Pic4: 幼稚園でのTシャツ受け渡しの様子②



Pic5:幼稚園の運動会の様子



Pic6:幼稚園オリジナルエコバック



Pic7：おままごとセット



附属学校最新情報紹介

学校名	大阪教育大学附属平野小学校		
役職	PTA 会長	氏名	藤井 由香
活動名	みんなで海の豊かさを守ろう！ヘチマプロジェクト		

【活動の趣旨】

本校の PTA サークルに「AKP24」という教育支援サークルがあります。AKPとは「明日の教育を共に創り出す保護者（Parents）の会」を意味します。

このサークルが主体となり、SDGs14 番目の目標である「海の豊かさを守ろう」を掲げて、「ヘチマプロジェクト」という活動に取り組んでいます。キッチンスポンジなどのプラスチック製品を使うと、擦れてできたマイクロプラスチックごみが排水口から河川を通りやがて海洋へと流れていきます。このマイクロプラスチックごみを魚が食べ、その魚を人間が獲って食べると健康被害が懸念されます。このような構図を払拭するために、子供たちと一緒に栽培したヘチマの実を加工してヘチマたわしを作りました。作ったヘチマたわしは校内清掃に用いる他、児童の各家庭で使ってもらうことで利用の拡大を目指しています。またヘチマたわしの有効活用、ヘチマプロジェクトの周知に向けて、動物園や水族館との連携を計画しています。

【活動の内容】

今年度は冬の「わくわくイベント」で保護者と共にヘチマをカットし、皮をむき、ヒモを通す加工を行いました。子どもたちは授業で学ぶ SDG s について保護者と共に体験することでさらに深い理解につながる楽しい体験ができました。実はヘチマの皮を剥くのは個体によっては容易でないことがあります。保護者のアドバイスで工夫することで、子どもたちはヘチマを上手に剥くことができていました。

今後の活動として子どもたちによるヘチマたわしの商店街での販売も計画しています。そのことを通じてさらに金銭教育にも貢献したいと考えています。

【活動の感想】

ヘチマたわしを通じて遠い海洋環境を身近に感じる活動を行うこと。その活動を保護者と共に楽しく行うことで子どもたちは自分たちを取りまく環境についての関心を持つことができるようになっていきます。またこの活動は本校の他、10 の幼稚園・保育園・こども園・小学校、4つの自治体が参加・協力しており、同じ目標に向かう1つのチームとして活動しています。また地域社会との繋がりを持つ取り組みにもなっています。今後も子どもたちが自身を取り巻く環境に興味を持つ取り組みを進めてゆきたいと考えています。



ヘチマにヒモを通して・・・

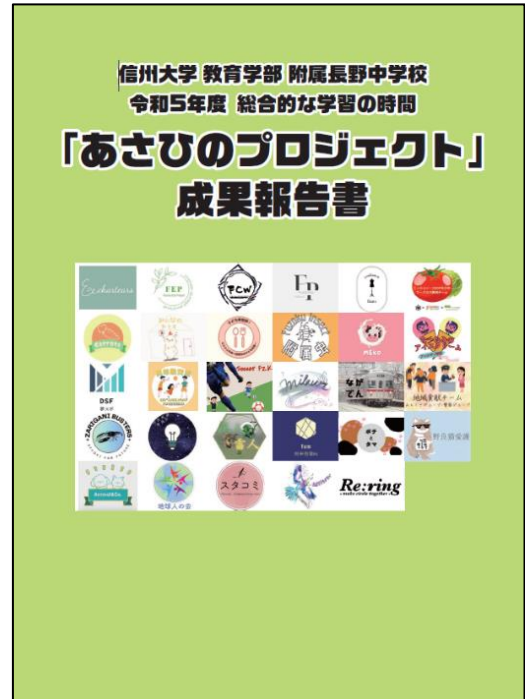


海の環境について真剣に聞き入る子どもたち

附属学校最新情報紹介

学校名	信州大学教育学部附属長野中学校		
役職	副校長	氏名	畑 邦弘
活動名	「キャリア×STEAM」の学習による新たなカリキュラム開発 ～教科の横断と総合的な学習の時間とのカリキュラム・マネジメント～		

令和5年度、本校のこれまでの総合的な学習の時間のカリキュラムを基盤とした「あさひのプロジェクト」の活動の様子をまとめた『「あさひのプロジェクト」成果報告書』を発刊しました。ご興味のある方は、本校代表メール(nc_daihyo@shinshu-u.ac.jp)までご連絡ください。



「あさひのプロジェクト」成果報告書



チームごとの活動報告



各学年の総合的な学習の時間の様子



附属長野中学校の一年間の様子

【あさひのプロジェクトの概要】

本校では、中学校学習指導要領（平成29年告示）の前文に示されている生徒の姿を、「様々な社会変化を乗り越えた持続可能な社会を目指して、豊かな人生を創造していこうとするために、自分のよさや可能性を認識するとともに、他者を尊重し、多様な他者と協働しながら学べる生徒」と捉え、その姿を具現するためには「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成する新たなカリキュラム開発が必要であると考えました。そして、2030年問題などの現代的な諸課題に対応できる「キャリア教育」と、社会の一員として自覚や将来への見通しをもてるよう実生活・実社会のニーズを知る・解決していく「STEAM教育」が必要と考え、令和5年度より「キャリア×STEAM」の学習による新たなカリキュラム開発～教科の横断と総合的な学習の時間とのカリキュラム・マネジメント～の研究を進めています。

令和5年度は、研究1年次として、教科の横断と総合的な学習の時間とのカリキュラム・マネジメントの提案するために、カリキュラム開発の軸となる次の三つの学習へのアプローチを構想しました。

- I：教科・アプローチ（教科等の学習） → 各教科等の本質に迫る学習
- II：プル・アプローチ（教科横断型の学習） → 生徒の中に潜在する教科横断的な視点を引き出す学習
- III：プッシュ・アプローチ（社会参画型の学習） → 実生活・実社会の諸課題を解決していく学習

その中で、III：プッシュ・アプローチの学習として、本校のこれまでの総合的な学習の時間のカリキュラムを基盤とした「あさひのプロジェクト」を設定しました。

「あさひのプロジェクト」での活動を始めるにあたり、社会貢献をテーマに生徒の「やってみたい！」を具現化し、主体的に探究活動を始められるように、#（ハッシュタグ）によるチーム分けを行いました。

そこでは、実生活・実社会の諸課題に対して、生徒が「やりたい活動」と関わりそうな「職種」について、生徒の記述を基に教師が関連する#を決め出し、生徒が一番近いと思う#を選び、同じ#を選んだ生徒同士で集まり、活動の検討を繰り返す行方場を位置付けました。この位置付けによって、活動内容の見通しがより具体的になり、計36の活動が提案されました。その後、生徒の提案者が立ち上げた36活動《プロジェクト型》と企業からの提案された5活動《ミッション型》の一覧を生徒に提示し、参加したいチームを選択する場を設定したところ、25活動《プロジェクト型》と4活動《ミッション型》の計29チームが編成されました。



ハッシュタグの例

#地域貢献 #商品開発 #デザイン #情報発信 #環境問題 #エネルギー #教育 #食糧問題
#イベント運営 #社会問題 #運輸 #スポーツ #ボランティア #ものづくり #テクノロジー

また、生徒が、地域や企業などの実社会に関わりながら課題解決に向けて探究を進めていくために、本校では、以下のような機会を年間行事に位置付けました。

【探究の日】	年間8回程度、校外活動などの探究を進めていく時間を確保するために、午後の日課をすべて総合的な学習の時間に充て、課題解決に取り組む時間と定めた日。
【ヒューマン・ウィーク】 (以後、H・Wと表記する)	本校が行っている総合的な学習の時間のカリキュラムの一つで、校外活動などの探究を進めていく時間を確保するために、7月の約一週間（令和5年度は4日間）をすべて総合的な学習の時間に充て、課題解決に取り組む時間と定めた日。
【東京研修旅行】 ※3学年のみ実施	「あさひのプロジェクト」の活動を充実させるために、H・Wの後半2日間を東京研修旅行の時間に充て、東京にて企業訪問や実施調査する時間と定めた日。
【成果発表会】 ※探究の日に実施	年間3回程度、自分たちの活動の意義や目的を客観的に確認するために、探究の日を成果発表会に充て、異学年の生徒や保護者、地域・企業の方々との活動についての情報交換する時間と定めた日。



附属学校最新情報紹介

学校名	奈良女子大学附属小学校		
役 職	育友会会長	氏 名	谷本昌也
活動名	PTCC 全体行事		

内 容

奈良女子大学附属小学校育友会には、お父さん達を中心となって子供たちの学校生活をサポートする「PTCC」という組織があります。主な活動は、子どもたちが楽しみながら学びを体験できる行事の企画と運営で、各学年別の「学年行事」と全校一斉の「全体行事」をそれぞれ年1回実施しています。

そのうちの「全体行事」が令和5年11月18日(土)の午前中に開催されました。

行事のメインテーマを“生きる”とし、各学年のPTCC委員がそこから自由に発想を膨らませて、子どもたちに体験してもらった内容を練りこんでいきます。

4月から毎月1回土曜日の午後に学校に集まって、半年かけて企画を立案しました。

【低学年の部】

1年生 PTCC・・・「体や目の不自由な人の気持ちになってみよう(バリアフリー体験)」

～車椅子やアイマスクを使い、不自由さや介助方法を体験～

2年生 PTCC・・・「大切な人をまもるのはあなたです」

～震災体験談、AED デモ、心臓マッサージ体験～

3年生 PTCC・・・「砂糖を変身させよう」

～身近な調味料の砂糖についての知識を、お菓子作りを通して深める～

【高学年の部】

4年生 PTCC・・・「無人島からの脱出／筏造りにチャレンジ」

～限られた材料で筏を造り、プールに浮かべる～

5年生 PTCC・・・「防犯クイズと合気道体験」

～防犯の基礎知識をクイズで学び、合気道で受け身や姿勢を体験～

6年生 PTCC・・・「無意識の思い込み(アンコンシャスバイアス)と生きる」

～日常の思い込みや先入観に気付き、自身を見つめなおし仲良し深める～



1年生から3年生の子供たちは【低学年の部】、4年生から6年生の子供たちは【高学年の部】のそれぞれ3つの企画を体験します。

当日は企画の運営はもちろん、朝の会や帰りの会もすべて PTCC 委員が担当です。進行や子供たちの移動等でお父さんだけでなくお母さん達にもたくさんのご協力をいただきました。先生方は子どもたちと各企画をまわっていただき、基本的にはただ見守っていただく役割です。

お父さん達の様々な専門知識と遊び心を最大限生かしながら、親子一緒に学ぶ。そんな非日常な学校生活を子どもたちは毎年楽しみにしてくれていますし、当日は笑顔と歓声を全開にしつつも時に真剣な眼差しで「いつもと違う」学びとお父さんの姿を満喫していました。



PTCC は、その活動を通じてお父さん同士の交流を広め深める機会にもなっています。

附属学校最新情報紹介

学校名	奈良女子大学附属小学校		
役職	育友会会長	氏名	谷本昌也
活動名	環境整備活動		

内容

奈良女子大学附属小学校育友会では、秋の大運動会で子どもたちが安心して競技に取り組めるために、事前に運動場の草抜きを中心とした「環境整備活動」を学校と協力して実施しています。

今年度は九月十六日(土)の土曜参観日に合わせて開催しましたが、活動担当の育友会安全部が周辺自治会と情報共有しながら初めて校外での活動を展開しました。

主に学校から最寄り駅の近鉄学園前駅までの通学路の除草作業と、各交差点に貼り付けてある「とまれシール」の交換作業を行いました。狭い歩道にかぶさるように生えていた草がなくなり、「とまれシール」もより分かりやすい鮮やかな色で大変歩きやすくなったと、自治会長さんから感謝のお言葉もいただきました。

今後もこのような活動を通じて、周辺自治会とも交流を深めていきたいと思ひます。



附属学校最新情報紹介

学校名	愛媛大学教育学部附属小学校		
役職	PTA 副会長	氏名	上村 仁美
活動名	令和5年度のPTA活動		

5月 140周年記念運動会



ボランティアとPTA役員で協力して、前日準備から後片付けまで行いました。

10月 制服バザー



不要になった制服や体操服を回収し、バザーを開催しました。収益金116,800円は本校防災バザー基金へ寄付しました。

12月 四附連親睦会



コロナ禍前に行われていた四附連球技大会に代わり親睦会を開催しました。各校のPTA活動が共有でき有意義な時間となりました。

2月 研究大会



研究大会に向けて、日頃子どもでは難しい高い所の掃除まで行いました。

附属学校最新情報紹介

学校名	奈良教育大学附属幼稚園		
役職	育友会会長	氏名	山本 智子
活動名	捨てちゃうものがステキに変身！～未来のためにアップサイクル～		

本園では毎年、育友会が主催し「子供たちと保護者の方々がじっくり触れ合い楽しむこと」を目的としたイベントを開催しております。また園では日頃より SDGs・ESD に積極的に取り組まれており、子供たちも私たち保護者もそれについてのお話を伺い学ぶ機会が多くあります。そこで今年度のイベントは、楽しく遊びながら SDGs をより身近なものとして捉えられる体験ができないかと考え、「アップサイクル」をテーマに廃材を利用したクラフトを企画しました。

奈良には老舗の皮製品を扱う会社が多数あり、中でも子供たちにもなじみの深いランドセルの製造会社にご協力を依頼したところ、快くランドセル生地 of 廃棄部分をゆずって頂くことができました。廃棄部分とは思えないほどの色とりどりで綺麗な皮生地をたくさん頂くことができ、長く使えるフォトフレームと、通園鞆やランドセルにもつけられるキーホルダーの二点を制作することにしました。

◇イベント当日は、まず初めに、子供たちにアップサイクルとは何かについて、分かりやすい言葉でスライドを用いて説明しました。

そして、ご協力頂いたランドセル会社ではどのようにランドセルが作られ、その過程でどうしても捨ててしまう部分が出てきてしまうこと、捨てられる部分をみんなの力で長く使える素敵なものに生まれ変わらせようというお話をしました。



◇生地を型に切ったり穴を開けたりという作業までは予めこちらで準備し、

- ① 好きな色の生地と、飾りのパーツを選ぶ
- ② フォトフレームは紐を通して、カシメ金具で止める、キーホルダーも金具を通してカシメ金具をつける
- ③ 生地に様々な模様の金型を押し当て、木槌で上から叩き模様を付ける

という三つの工程を子供たちに体験してもらいました。



子どもたちは色とりどりの生地や、初めて触れる道具に目を輝かせ、保護者の方と協力しながら少し難しい作業にも夢中で取り組んでいました。

子供たちからは「もっとやりたい!」「またやろうね!」という嬉しい声もたくさん聞かれ、保護者の方々からも、「捨てる部分を減らすということを親子共に意識していきたいと思った」「廃材から作ったとは思えないかわいい作品ができた」「子供がワクワクして何度も挑戦していた」等のご感想を頂きました。

アップサイクルを実体験することで、より SDGs にも興味関心をもち、自分事として捉える機会にもなったのではないかと思います。